

テーマ：2008年7-9月期GDP統計（2次速報）予測
 ～ 前期比年率▲1.1%に下方修正の見込み ～

発表日：2008年12月4日（木）

第一生命経済研究所 経済調査部
 主任エコノミスト 新家 義貴
 TEL:03-5221-4528

○ 前期比年率▲1.1%を予想

12月9日公表予定の2008年7-9月期実質GDP（2次速報）は前期比▲0.3%、前期比年率▲1.1%と、1次速報段階の前期比▲0.1%、前期比年率▲0.4%から下方修正されると予想する。

設備投資が前期比▲2.3%と、1次速報段階の同▲1.7%から下方修正されるとみられることが主因である。本日公表された法人企業統計の設備投資（ソフトウェア投資額除く）は前年比▲13.3%と4-6月期の同▲7.6%からマイナス幅が拡大した。QE推計に際しては、サンプル替えの影響を軽減するための断層調整や、リース取引に関する会計基準適用の影響を除去するための処理などが行われているが、そうした調整を行っても前期から悪化していることに変わりはない。その他、金融機関設備投資や9月分生産動態統計なども反映すると、設備投資は1次速報から下方修正が見込まれる。設備投資が08年度入り以降減少基調にあることが示されるだろう。また、民間在庫投資は、対GDPの前期比寄与度が▲0.1%ポイントと、1次速報の同0.0%ポイントから下方修正されると予想する。その他の需要項目では、公共投資が前期比+0.8%と小幅上方修正（1次速報：同+0.4%）される見込みである。

このように、7-9月期GDP2次速報は下方修正が予想される。リーマン・ショック以前の段階で既に景気が低迷していたことが改めて確認されるだろう。10-12月期以降は、これにリーマンショック後の金融市場の大混乱と海外経済急失速の影響が加わってくることから、景気の調整色は一段と強まってくると考えられる。

○ 予測値は幅をもってみる必要あり

12月2日に公表された2007年度のGDP確報では実質GDPが前年度比+1.9%と、速報値の同+1.7%から上方修正された。また、2006年度は確々報化に伴って下方修正（+2.5% → +2.3%）されるなど、過去の系列が改訂されている。さらに、現時点では2008年1-3月期までしか実績値が公表されていないことに加え、季節調整値も未公表である（季節調整モデルも未公表）。こうしたことから、今回の2008年7-9月期GDP2次速報の予測を正確に行うことは難しく、予測値には十分幅をもってみる必要がある。

2008年7-9月期GDP2次速報予測

（前期比、%）

	2008年 7-9月期	2008年 7-9月期
	1次速報	2次速報予測
実質GDP	▲0.1	▲0.3
前期比年率	▲0.4	▲1.1
内需寄与度	0.1	▲0.1
民間最終消費支出	0.3	0.3
民間住宅	4.0	4.0
民間企業設備	▲1.7	▲2.3
民間在庫品増加(寄与度)	0.0	▲0.1
政府最終消費支出	0.1	0.1
公的固定資本形成	0.4	0.8
外需寄与度	▲0.2	▲0.2
財貨・サービスの輸出	0.7	0.7
財貨・サービスの輸入	1.9	1.9
名目GDP	▲0.5	▲0.7
前期比年率	▲2.1	▲2.8